

もっと
福井の魅力を
知ってほしい
から・・・

ふくいのもっと 魅力探訪

ふくいのお宝ひとくちメモ

ふくい宝さがし 小冊子(想集編)より



VOL.01 福の井

福井城とは

関ヶ原の戦いの後、徳川家康の次男結城秀康が、現在の福井県庁・県警本部のある所(当時の北庄)に居城を定めた。以後、越前松平氏が藩主となり、明治4年の廃藩置県により、建物・外堀が壊されるまでの約260年間、総高37mの威容を誇っていたのが福井城である。

福井の名前の由来?

「福の井」

御廊下橋を渡って福井城跡に入り、すぐ左手の石段を登ると天守台跡がある。「福の井」とは、この天守台跡地の東側隅に唯一現存している井戸のこと。福井の地名の由来はこの「福の井」に因んだものとの説明碑の記述があるが確証はない。

別説で、結城秀康の子、松平忠直が除封され、その弟忠昌が越後高田から入った際に「北庄」から「福居」へ改められたとされている。なぜ、地名が変えられたのか。



整備が完了した「福の井」

戦国の世の一乗谷朝倉氏の滅亡、柴田勝家の失脚など、「北庄」の北の字が敗北につながることから福が居る「福居」へ改まったのではとの説がある。その後「福居」から「福井」へと変わり現在に至っている。

現在の福の井

福井城址のシンボルとなり、より親しめる場所となるように環境整備が行われていた福の井は、つい最近工事が終了した。震災後に改変されたと考えられる井戸石積みや井戸枠を江戸期の大きさに復元され、上屋が建



整備中の中央公園や御廊下橋

下橋の整備も進められており、景観も大きく変化している。これからの季節は、変わりゆく景色と眼前に広がる桜を眺めながら、ゆったりと過ごすのもまた一興だろう。

築された。また、井戸のすぐ傍には、給水設備が設置され、福井城の井戸水が利用できるようになった。天守台跡地から見える中央公園や城址へとつながる御廊